

2013. 3. 26

JADCI NEWS No. 38



The Japanese Association for Developmental & Comparative Immunology

目次

- ・「会長に就任して半年が経過して」 笠原 正典
- ・「“吉備の国 岡山” への誘い」 浅田 伸彦
- ・「God be with you!」 古田 恵美子
- ・事務局からのご連絡とお願い
- ・日本比較免疫学会 第25回学術集会のご案内

日本比較免疫学会 役員 (2012.9～2014.8)

会長：笠原 正典 (北海道大学)

副会長：中尾 実樹 (九州大学)

庶務・会計：倉田 祥一郎 (東北大学)、補助役員 矢野 環 (東北大学)

学術集会担当：丸山 正 (海洋研究開発機構)、末武 弘章 (福井県立大学)

会計監査：中西 照幸 (日本大学)、川畑 俊一郎 (九州大学)

広報担当：飯島 亮介 (帝京大学)、広瀬 裕一 (琉球大学)

発行者：日本比較免疫学会長 笠原 正典

事務局：庶務担当 倉田 祥一郎

住所 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院 薬学研究科 生命機能解析学分野

事務局 e-mail: jadci2office@gmail.com

電話 022-795-4555 (ダイヤルイン) FAX 022-795-6802

郵便振替 口座番号 01730-9-80586

加入者名 日本比較免疫学会

学会ホームページ <http://plaza.umin.ac.jp/~jadci/>

会長に就任して半年が経過して

日本比較免疫学会 会長 笠原 正典

北海道大学大学院医学研究科 分子病理学野

昨年9月に会長を拝命してから半年が過ぎました。この間の学会の動きについて手短にご報告します。

まず、第25回学術集会は岡山理科大学の浅田伸彦教授を会長として平成25年8月26日から28日にかけて同大学キャンパスにある加計学園創立50周年記念館において開催されます。浅田教授から本号においてご案内があるとおおり、準備が着々と進んでいます。イタリア・ミラノで開かれる国際免疫学会議と日程が一部重なっているのが気になりますが、たくさんの会員諸氏のご参加をお待ちしています。

次に、昨年の暮れに二つの常置委員会、すなわち学術委員会と将来計画委員会を設置させていただきました。学会運営を効率化すること、学会の英知を結集して課題に対応できるようにすることが目的です。まず、学術委員会ですが、この委員会では、1) 学術集会におけるシンポジウム、ワークショップ等の企画についての助言、2) 学会賞（古田賞および古田奨励賞）受賞者の選考、3) 比較三学会合同シンポジウムのシンポジストの推薦を行っていただくことにいたしました。また、将来計画委員会では、1) 学会のあり方、将来計画に関する事項、2) 人材リクルート、若手育成に関する事項、3) 国内外関連学会（ISDCIを含む）との連絡、交渉に関する

事項を審議していただくことにしました。早速、本年初めに将来計画委員会を開催し、比較三学会合同シンポジウムのあり方について検討し、日本比較内分泌学会、日本比較生理生化学会と協議を進めることになりました。詳細については、また改めてご報告させていただきたいと思えます。

大変残念なことですが、昨年の12月11日に村松 繁先生（京都大学名誉教授）が亡くなられました。先生は平成元年に本会の初代会長に就任され、平成10年3月まで会長をお務めになられました。まさに本会の礎を築かれた方でした。動物学、免疫学を基盤として、免疫系の進化を俯瞰的視点から洞察され、比較免疫学に大きな貢献をされました。「はじめにマクロファージありき」という先生のお言葉は皆様もよくご存じのことと思えます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学会が活力を維持していくためには、質の高い研究を活発に行っている若手会員のリクルートが不可欠です。この点には特に力を注いでいきたいと思っております。会員の皆様におかれましては、今後とも学会の運営に関してご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

“吉備の国 岡山”への誘い

第25回学術集会会長 浅田 伸彦
岡山理科大学理学部動物学科

この小文を認めている間の2013年1月に訃報が参りました。会員の一人として初代会長、名誉会員 村松 繁博士にはご冥福をお祈りさせていただきます。

さて、この様な大役を私が努めさせて頂く役が遂に巡って参りました。会場としての当大学は1964(昭和39)年に故加計 勉博士が創立した4学部から成る大学で、大学としては2014年に創立50周年を迎えます。翻ってみますと、本学会はこの度開催25回を迎え、四半世紀という栄えある歴史を誇る学会の学術集会を当大学において開催させて頂くことは、輪廻転生感を抱き、大変に光栄に思い、深い感傷感に浸っています。

ソフトとしての生物の世界には共通性と多様性が存在して、バラエティーに富むことは会員各位には共通認識でしょう。比較免疫学の分野について私が評するのは僭越至極ですが、Tollなどにはじまる自然免疫現象は抗体を生じない昆虫などで今日も賑やかなようです。そこで、本学術集会の特別講演につきましては、ある生命事象の遺伝子多型や生物の進化の機構などがご専門の総合研究大学院大学・葉山の学長、高畑 尚之博士にご講演を頂く予定です。私ごとで恐縮ですが、高畑博士におかれましては以前、当大学への集中講義でご来学されて、「分子進化学」の講義をお願いし、免疫分野ではMHCなどについてご講演頂いたことがあります。そのような経緯から、シンポジウムのテーマは「進化生物学から見た比較免疫学」

として4名の演者の方にご講演を依頼致しました。

私が所属しています理学部動物学科は5年前に増設された国内唯一の学科です。逆説的にはまだ若く、いろいろな可能性に満ちた集団です。当学科を構成する分集団としての小集団は遺伝的浮動並みの生物進化の途上にありますので、事象の推移や体内外からの刺激に対しては敏感かつ迅速な対応が可能な集団であろうと自負しています。本学術集会事務局としては教員2名(南 善子博士と私)と10名のヘルプ学生という小集団が大集団でかつ明晰な各位に対して学術集会を遂行させて頂くという、だいそれた事業を展開させて頂く所存です。これからは学会会員各位からの数多くの演題が集まることを願っています。なお、本学術集会の実施にあたりましては種々のアドバイスを頂きました、前、現学会会長、学会事務局の各位、助成を頂きました岡山市にあり財団法人 八雲環境科学振興財団には厚く感謝致します。

岡山市は瀬戸内海地方に属して気候は温暖、多島美など風光明媚な地方の一つと言われています。本学術集会へ起こしの各位におかれましては、暑い夏ではありますが、日ごろの喧騒から離れまして一時の休養をお楽しみくださいますことをお祈りしつつ、このあたりで失礼致します。

“吉備の国 岡山”へようこそ！

God be with you!

日本比較免疫学会 名誉会長 古田 恵美子

日本比較免疫学会初代会長村松繁先生が、2012年12月11日（火曜日）ご逝去なさいました。享年80歳でした。

12月1日肺炎で急遽ご入院、肺気腫との合併症で、高熱と呼吸困難で11日神に召されました。先生は、初代会長（1989年～1999年）として初期の学会を盛り立てて下さいました。ここに心からなる哀悼の意を表し、安らかなるご冥福をお祈りいたします。

村松繁先生との出会いは、日本比較免疫学会設立の時からです。当時の副会長は山口大学の友永進先生、事務局は私古田恵美子でした。初めての学会三役としては素晴らしい滑り出しだったと思っております。

第一回学会（当時は研究会）は1989年11月28日から3日間東京エーザイホールで開催され、引き続き（財）水産無脊椎動物研究所と共催でシンポジウムを開催、1992年5月「無脊椎動物の生体防御」（名取、野本、古田、村松編著。学会出版センター）を刊行しました。日本では無脊椎動物の生体防御が研究書として1冊にまとめられたのは恐らく初めてのことでないでしょうか。科学的センスに満ちた先生方と一緒にできました事は、今でも誇りの一つです。

1998年4月、私は二代目会長に選任され、京都の先生のお宅に表敬訪問させて頂きました。そのあと、先生は大原の寂光院、三千院に案内して下さいました。京の都はまさに桜の花盛りでしたが、この年は寒気が日本列島を襲い、「雪月花」の{雪花}を鴨川のほとりで眺める事ができました。と、大変ロマンチックですが、実のところは、先生と私は寒くてぶるぶるで、近くのうどん屋に飛び込んで熱いうどんをすすりました。美しくて楽しかった忘れられない思い出です、

これは、余談ですが、私が村松先生とお参りいたしましたあの「寂光院」は、数ヶ月後どこかの愚か者に放火され全焼してしまいました。「犯人をひつとらえ、京の町を引き回しの上、火あぶりの刑にする！」と先生の奥様と二人電話で嘆き怒ったものでした。村松先生の思い出は、その殆んどは酒宴のこと。そんなに酒びたりだったとは思っていない、のですが。

先生！日本比較免疫学会に沢山の思い出を残して頂きました。本当に有り難うございました。どうぞ安らかにお眠り下さいませ様心からお祈りいたします。

事務局より

年会費納入のお願い

平成 25 年度までの年会費を、メール便にてお送りしました「年会費振り込み用の用紙（年会費の記載があります）」を用いてお振り込み下さい。

一般会員 5,000円

学生会員 3,000円（博士課程以上の学生。学生証のコピーを郵送あるいはスキャンイメージをメールで事務局までお送りください。）

*修士課程までの学生会員は年会費免除（入会手続きは行なって下さい。学生証のコピーを郵送あるいはスキャンイメージをメールで事務局までお送りください。）

*郵便局備え付けの振替用紙をご利用の場合は下記の情報をご記入ください。

振替口座記号番号：02240-6-119408

加入者名：日本比較免疫学会

XX 年度年会費 と明記してください。

第 25 回学術集会（岡山市）への参加・発表申し込み

第 25 回学術集会が、平成 25 年 8 月 26 日から 28 日に、岡山理科大学にて開催されます。皆様のご参加・ご発表をお待ち申し上げます。メール便にてお送りしました「参加費振り込み用の用紙（学会名のみ記載されています）」を用いて参加費・懇親会費をお振り込み下さい。

日本比較免疫学会賞（古田賞）の募集

平成 18 年度日本比較免疫学会総会において、日本比較免疫学会賞として古田賞、および古田奨励賞が制定されました。平成 25 年の古田賞候補者を募集いたします。自薦他薦を問わず、多くの会員の方々にご応募頂きますようお願い申し上げます。応募書式はホームページからダウンロードできます。応募締め切りは平成 25 年 5 月 15 日です。

第 26 回学術集会（仙台市）の概要

会期：平成 26 年 7 月上旬予定

会場：未定（候補会場：仙台市戦災復興記念館、東北大学片平さくらホール）

学術集会長：倉田祥一郎（東北大学大学院薬学研究科）

内容：一般演題、特別講演、シンポジウム、受賞講演（日本生体防御学会との同時期開催）

所属・住所が変わったら至急ご連絡を

所属や住所に変更が生じた場合には、学会事務局まで至急ご連絡下さい。E-mailかFaxでお願いいたします。

書式は特にありませんので、下記の情報を事務局までご連絡下さい。

指名、住所、所属、電話/Fax 番号、メールアドレス

News へのご寄稿を募集しております

エッセイ、学会参加記、JADCI へのご意見・ご提言などをお待ちいたします。事務局までお寄せ下さい。また、News を充実させるため、その構成や編集についてのご意見も歓迎いたします。

新会員の入会を歓迎いたします

皆様のお近くに、比較免疫学にご興味の方がおられましたら、本学会への入会をぜひともお勧めいただけますようお願い申し上げます。

電子メールで下記の情報を事務局までお知らせ下さい。事務局メールアドレス：jadci2office@gmail.com

年会費（5000 円、入会金なし）の振替用紙を郵送いたします。

1. 氏名
2. 氏名（ローマ字）
3. 所属
4. 連絡先（所属先か自宅かを明記して下さい）

郵便番号・住所・電話/Fax 番号

5. E-mail アドレス
6. 専門分野

日本比較免疫学会ホームページ

<http://plaza.umin.ac.jp/~jadci/>

日本比較免疫学会第25回学術集会のご案内

学術集会長 浅田 伸彦 (岡山理科大学理学部動物学科) E-mail: asada@zool.ous.ac.jp
事務局長 南 善子 (岡山理科大学理学部生物化学科) E-mail: minami@dbc.ous.ac.jp

1. 会期と会場

2013年8月26日(月)から28日(水)
岡山理科大学創立50周年記念館 4階
〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1
1階の広報室は TEL: 086-256-8609、FAX:086-256-8479
大学の URL は <http://www.ous.ac.jp> です。

2. 連絡先 (日本比較免疫学会第25回学術集会事務局)

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学理学部動物学科 動物遺伝学研究室
浅田 伸彦
TEL: 086-256-9413、FAX:086-256-9413
E-mail: asada@zool.ous.ac.jp

3. 日程と概要

8月26日(月):

午後 参加受付

会場にて12時00分から開始致します。ネームプレートを用意致しますので着用して下さい。なお、ネームプレートは学術集会終了後にご返却をお願い致します。

学会への入会手続き、年会費の納入受付も併せて行います。

一般講演

8月27日(火):

午前 一般講演

午後 総会・学会賞表彰式

古田賞受賞者講演

特別講演

高畑 尚之先生(総合研究大学院大学) 題名「未定」

記念写真撮影

夕方 懇親会(会場:公立学校共済組合岡山宿泊所 ピュアリティまきび)

〒700-0907

岡山市北区下石井2丁目6番41号

TEL 086-232-0511、FAX 086-224-2995

<http://www.makibi.jp>

8月28日(水)

午前 シンポジウム「進化生物学から見た比較免疫学」

シンポジスト(あいうえお順)

小出 剛 先生(国立遺伝学研究所) 題名「未定」

酒巻 和弘 先生(京都大学) 題名「未定」

田中 俊治 先生(名古屋大学) 題名「未定」

和田(頼田)和子先生(徳島大学) 題名「未定」

4. 参加費

学会参加費: 会員、非会員、博士後期課程以上の学生 5,000円

修士(博士課程前期)課程の学生 3,000円

学部学生 無料

懇親会参加費: 5,000円

懇親会会場の「ピュアリティまきび」はJR岡山駅から南へ700m、歩いて約7分です。当日は会場からバスを出しますのでご利用下さい。学生もお誘いの上、奮ってご参加下さい。

5. 振込先

振込み用紙を利用して2013年6月10日(月)までにお振込み下さい。

ゆう貯銀行(岡山店)

口座記号番号 01360 -2 -89199

口座名称(漢字) 日本比較免疫学会

(カナ) ニホンヒカクメンエキガツカイ

他行などからの振込の受取口座として利用される場合は、以下の内容をご指定下さい。

店名(店番) 一三九(イチサンキユウ)店(139)

預金種目 当座

口座番号 0089199

6. 参加申し込み・演題申し込み (締切り:2013年6月10日(月)必着)

(1) または(2)の方法でお願い致します。

(1) 参加申込書(JADCIのホームページからダウンロードが可能)に全ての必要項目を記入し「2. 連絡先」のE-mail: asada@zool.ous.ac.jp に送信する。

(2) 参加申込書に必要事項を記入して、「2. 連絡先」の学術集会事務局宛に郵送する。

7. 発表要領

PC用液晶プロジェクターにより投影して行います。(Power Point 2003、2007 あるいは2010 に対応/WindowsXP あるいは Windows7 に対応)。OHP、スライドは使用できません。USBメモリー対応のパソコンを用意致しますので、Power Point ファイルを事前に会場のパソコンにコピーするか、ご持参のメディアを接続して投影して頂くことになります。試写用のパソコンを会場受付にご用意致しますので、動作の確認は事前に行ってください。ご自身のパソコンの接続やMacのご使用をご希望の場合は前もってその旨ご連絡下さい。

8. 講演要旨

講演要旨(オフセット印刷により講演要旨集を作成します。)は「見本」を参照して、和文または英文で作成して下さい。ご提出は「2. 連絡先」宛にE-mailか郵送でお願い致します。

(締切り:2013年6月10日(月)必着)

9. 会場へのアクセス(交通のご案内)

岡山理科大学キャンパスへは航空機、JR、バス、タクシーをご利用してお越し下さい。駐車スペースはございませんので自動車でのご来場はご遠慮下さい。URLは「1. 会期と会場」欄をご欄下さい。地図もご利用下さい。

航空機ご利用の場合:

岡山空港は岡山市北区内ですが、北西部にあります。岡山空港から岡山駅西口行きで岡山電気軌道(岡電)バスか中鉄バスをご利用下さい。いずれも片道運賃は740円で所要時間は約30分間です。詳細は各航空会社へお問い合わせされるか URL <http://www.okayama-airport.org/> をご欄下さい。

JRをご利用の場合:

岡山駅には東西口がありますがお互いの移動は無料です。

バスをご利用の場合:

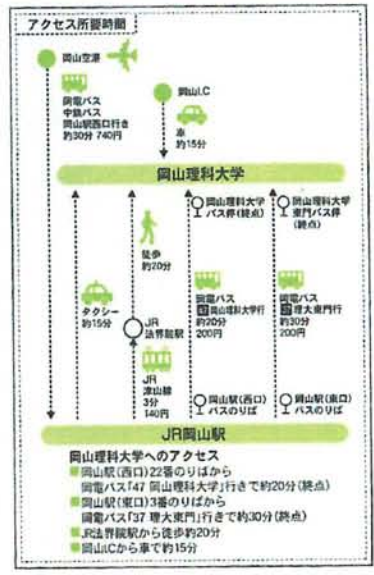
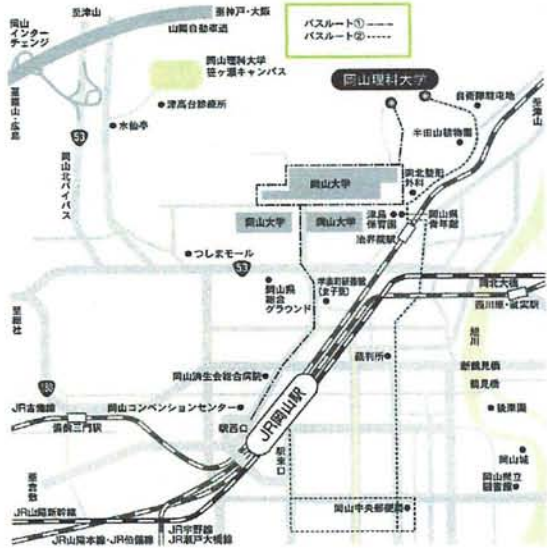
岡山駅西口からは岡電バスの22番乗り場「岡山理科大学」行きをご利用されて終点の「岡山理科大学」でお降り下さい。片道運賃は200円で所要時間は約20分間です。

バス停からはエスカレーターで上がって下さい。正門前ロータリーの右手奥、緑色建物の4階が会場です。(なお、岡山駅東口からもバスがございますが、会場へは岡山駅西口からのバスが便利です。)

タクシーをご利用の場合:

岡山駅の東西口のいずれからも岡山理科大学正門まで約15分間です。

徒歩の場合(健脚の方):JR岡山駅から北へ1駅の津山線法界院駅から約20分間です。



昼食は学内食堂かコンビニエンスストアをご利用下さい。学内食堂「たんぼぼ」へは、会場を出られて横の第25号館内エレベーターで1階に降り、外へ出て下さい。前の第20号館の1階です。コンビニエンスストアへは、正門を入れて左へ曲がり奥にあります。会場近くには飲食店はありませんのでご注意下さい。昼食の場所および懇親会会場につきましては、当日受付にてご案内致します。

10. 宿泊案内

ご予約の斡旋は致しておりません。申し訳ございませんが、各自でご予約して下さい。会場付近にはホテルはありませんが、岡山駅付近には多数のホテルがあります。

以上です。

8月には「岡山」へのお越しをお待ちしております。

2013年 月 日

日本比較免疫学会 第25回学術集会の参加申込書

氏名 _____ (フリガナ: _____)

同英字 _____

所属 _____

同英文 _____

連絡先 〒 _____

E-mail address _____

TEL: _____ FAX: _____

参加内容について (該当箇所をすべて○で囲んでください)

- 1) 懇親会に参加する。(はい・いいえ)
- 2) 学術集会では (シンポジスト・一般演題発表者・同連名者・参加のみ) である。

発表について (注: 下記の古田奨励賞に関する質問に○印にてお答え下さい)

1) 発表区分 (該当箇所を○で囲んでください) : シンポジウム・一般演題

2) 和文演題名 : _____

3) 英文演題名 : _____

4) 所属 (著者全員) : _____

5) 英文所属 (著者全員) : _____

古田奨励賞に (応募する・応募しない) (発表筆頭者が対象です。年齢不問)

一頁の行数 (標準) : 46 行
一行の文字数 (標準) : 45 文字 (2 段組 : 23+23 文字)

上余白 : 3 cm

演題 : MS 明朝・太字・14 ポイント

メダカの卵巣における食細胞の貪食物の経時的变化について

著者・所属 : MS 明朝・10.5 ポイント、氏名の右肩に数字を付け、所属施設の左肩に対応する数字を付ける

比較 太郎¹、免疫 一朗¹、浜松 譲²、比佐 美智子³

¹ 東都医科大学・解剖学教室、² 舞阪水産大学・免疫学教室、³ 独立医科大学・医学総合研究所

英語タイトル : Times New Roman・太字・10 ポイント

Changes of phagocytic materials by phagocytes in the ovaries of the medaka, *Oryzias latipes*.

著者・所属 (英語) : Times New Roman・10 ポイント、氏名の右肩に数字を付け、所属施設の左肩に対応する数字を付ける

Taroh Hikaku¹, Ichiro Men-eki¹, Tamotsu Hiroshima², Michiko Hisa³

¹ Department of Anatomy, Toto Medical University, ² Department of Biology, Toto Medical University,

³ Institute for Medical Sciences, Dokuritsu University School of Medicine

本文 : MS 明朝・10~11 ポイント、左右 2 段組 : 原則として、目的、材料・方法の概略、結果、結論、主たる参考文献に分ける

【目的】

産卵後のメダカ卵巣において、アポトーシスを起こした被覆上皮細胞の貪食、静注した墨粒子の貪食を形態学的に観察することから、食細胞の貪食物の経時的变化を検討した^[1]。

【材料と方法】

メダカ成魚を用い、産卵時から産卵後 5 日目の卵巣を Karnovsky 液で還流固定し、オスミウムで後固定後、エポン包埋、ウラン・鉛で染色、電顕で観察した。また、産卵時より産卵後 4 日目に、墨コロイド (ペリカンインク) を 0.05ml/匹、尾静脈より注入、24 時間後に卵巣を採取し、中性ホルマリンで固定、パラフィン包埋、HE 染色、光顕で観察した。

【結果】

食細胞によるアポトーシスを起こした被覆上皮細胞の貪食は、産卵後 1 日目に出現、アポトーシス細胞が消失した産卵後 3 日目以降は被覆上皮内に観察されなかった。それに対し、食細胞による墨粒子の貪食は、アポトシス細胞を貪食した食細胞が消失した産卵後 3 日目以後に内膜の支質内に出現した。

結果の項目に図表を入れても構いませんが、
写真等の画質は、印刷後少し悪くなることが
ありますことをご承知おき下さい。

【結論】

産卵後の退縮中の卵巣内食細胞は、産卵直後にはアポトーシス細胞のみを貪食し、墨粒子を貪食しなかった^[2]。その後、卵巣内食細胞の貪食物はアポトーシス細胞から墨粒子へと変化を示した^[3]。

【参考文献】

(必要に応じて記載する・しないを決めてください)

1. Temanski LF, Pitts EP, Rarx BS (1975) J Morphol Res, 53:37-65
2. 中田浩二, 菊山栄一 (2003) 農水産学シリーズ 135・魚類の生体防御系 (渡部 翼 編)、惑星社厚生閣、pp103-113
3. Glassrød B, Nelsen R, Sveinbjørnssen B (1995) Cell Biol, 280:39-48

参考文献は引用順に番号を付け、

本文中の対応する箇所の肩に同じ数字を付す。

文献のタイトルは省略しても構わない。

下余白 : 3 cm

左余白 2 cm

右余白 2 cm